学校だより
くすのき
7月号

ホームページはこちらから→

令和４年６月３０日
横浜市立本牧南小学校
校長　谷口　なおみ

めざす子どもの姿　元気いっぱい、やさしさいっぱい、何でもチャレンジ南っ子！

身の回りには「学び」がたくさんある

副校長　針持　拓郎

令和４年度に入り、以前と全く同じというわけにはいかないまでも、様々な学校行事を再び実施することができるようになってきました。授業参観もこれまで３回開催し、保護者の方に子どもたちの学習の様子を見ていただくことができたことは、学校として何よりうれしく思います。

また、先週行った５年生の「富士宿泊体験学習」をもって、各学年の遠足・宿泊行事も全て実施することができました。特に宿泊行事に関しては、昨年まではほぼ中止となっていただけに、今年度は子どもたちの喜びもひとしおだったのではないでしょうか。事前準備から当日まで、とても生き生きと活動している様子が見られました。今年度、私は１～５年生の遠足・宿泊行事の引率を行いましたが、どの学年も公共の場でのマナーを守り、時間を意識し、友達と声を掛け合いながらグループ行動できるのが、本牧南小学校の子どもたちのよさだと思いました。

さて４年生の野島宿泊体験学習に行った際、現地に大きな横穴がありました。そこを通りかかった４年生が「これは何だろう。」と疑問を口にしていたのがとても印象的でした。そして「この穴は、こういう役割のために作られたのではないか。」と自分の考えを話していたのもまたすばらしかったです。５年生の富士宿泊体験学習では、転がっている石を見て、「なぜこんなに小さな穴が開いているのか。」「なぜ赤っぽい色をしているのか。」という疑問をもつ児童がいました。「横浜に戻ったら自分で調べてみるといいよ。」と告げると、「はい。」と元気よく返事をする姿も見られました。

身の回りの事象に気づき、様々な疑問をもつ、考える、調べるといった活動は、正に生きた学びであり、本来の意味での「学習」であろうと思います。そう考えると、「コップの表面に水滴がつくのはなぜだろう。」「６月にはどうして梅雨があるのだろう。」「６月２日ってどうして横浜だけ休みなの。」など、実は身の回りにもたくさんの「謎」があふれていることに気づきます。そんな「なぜ・なに・どうして」にどれだけ気づけるか、そして自ら探求しようと思うかが大事なのではないかと思います。

今週から、３年ぶりとなる「水遊び・水泳運動」の学習も始まりました。小学校で行う「水泳」には、泳ぎ方を学ぶだけでなく、水に慣れ、万が一の時に備える安全学習の意味合いもあります。回数はそんなに多くありませんが、よい学びになるよう、安全に気をつけて指導してまいります。

磯の生き物に興味を示す四年生

霧の中の富士山を歩く五年生

有名な「三猿」を見てその意味を知る六年生